

# キルパー液剤の簡易処理法によるコナダニ対策

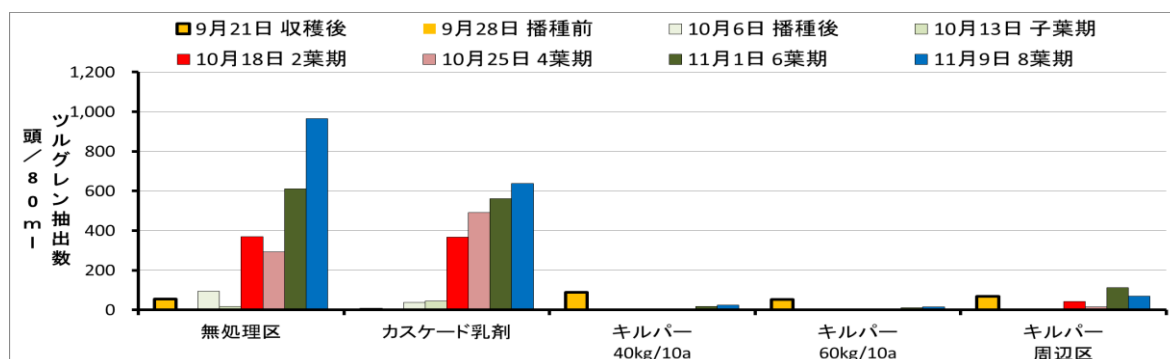
○本田善之・岩本哲弥  
山口県農林総合技術センター

中山間地のハウレンソウ施設栽培では、ハウレンソウケナガコナダニ（以下コナダニと略）の被害が問題となっている。コナダニは、土壌表面に生える藻類を増殖源とすること、播種前の土壌に発生した藻類を鋤込むと多発生するリスクが高いことが明らかとなっている。そこで、播種前の藻類をキルパー液剤で簡易に処理した場合のコナダニ被害抑制効果を確認した。

試験は2017年10月に周南市のハウレンソウ農家のハウス（5m×30m×2、品種ミラージュ）で実施した。無処理区と対照区（カスケード乳剤区）は4㎡の3連制、キルパー液剤40kg/10aとキルパー液剤60kg/10a、キルパー液剤周辺区は15㎡の3連制で実施した。キルパー液剤は前作収穫時に耕耘せずに所定量の薬剤を散布後、ビニール被覆は行わずにサイドビニールを閉めて3日間密閉し、4～7日の間、開放した。キルパー周辺区はキルパー液剤を散布した同一ハウスの無防除区とした。別ハウスに対照区（カスケード乳剤区）を設け、2葉期と4葉期にカスケード乳剤4000倍300L/10aを散布した。同ハウスには無処理区も設けた。

キルパー液剤40kg/10a区と60kg/10a区は処理により藻類をほとんど枯死したため、コナダニの発生はほとんどなく、収穫時の被害度は1程度であった。キルパー周辺区は初期のコナダニ密度は少なかったが、後半増加し収穫時の被害度は5.9であった。カスケード乳剤区と無処理区は、2葉期から密度が増加し収穫時にはツルグレン抽出数が600頭/80mlを超え、被害度は60前後となった。

これらのことから、キルパー液剤は散布時に混和して密閉しなくても、ハウスサイドを閉めるだけの簡易な方法で、播種前の藻類を除去しコナダニ密度を低下させることが可能であった。しかし、後半は密度が増加傾向にあり、播種後の藻類の発生が多い場合には、2葉期にベイト剤を散布するなどの追加防除が必要となると考えられる。



Control of *Tyrophagus similis* Volgin (Acari: Acaridae) by simplified treatment method of killper solution

Yoshiyuki Honda・Tetsuhiro Iwamoto

Yamaguchi Prefectural Agriculture & Forestry General Technology Center